



DMIの友人のみなさまへ

世界中のDMIの働きのために、祈り参加してくださっていることを感謝いたします。また、5月のチャリティーコンサートに足を運んでくださったみなさま、ありがとうございました。こうしてDMIの最近の働きについてご報告できるのは感謝なことです。今月は、フィリピンの働きに焦点を絞って、みなさまにお伝えします。佐世保ローア・バプテスト教会の湊崎真砂先生ご夫妻がフィリピンの春キャンプの講師として招待されました。そこで、湊崎先生に報告をしていただき、写真も分かち合っていたくようをお願いしました。日本から講師を送り出し、フィリピンの働きのために仕えていただけることができるのは、本当にすばらしいことです。

それに加えて、フィリピンの他の働きについても、いくつか分かち合わせていただきます。どうかこれを読んで、みなさまの心が励まされますように、そして、つづけてフィリピンのろう者のためにお祈りくださいますように。みなさまに豊かな祝福がありますように。

日本 DMI 理事長

アレイン・マドレ

フィリピンのろう者キャンプに際して

佐世保ローア・バプテスト教会 湊崎 真砂

私たちはネグロス島のバコロド在住の DMI インマヌエルろう者教会のアルバート・メーカド牧師夫妻から 4 月 18 日（月）から 20 日（木）にかけての DMI キャンプメッセージ依頼を受けました。しかし、無理だろうと断るつもりでした。4 月のスケジュールを調べてみると、4 月 6 日（水）から 12 日（火）にかけて韓国のろう者教会の特別集会、22 日（金）から 26 日（火）まで東京、愛知、奈良など巡回伝道に行くというハードスケジュールでしたので断ろうと思っていました。しかし、「受けるよりも与える方が幸いである」と言われた主イエス様のみことばを思い起こし、奉仕のご依頼を引き受けました。

私たち夫婦は 4 月 13 日（水）に韓国での奉仕を済ませてから韓国ろう者牧師の許仁寧先生と一緒に仁川を発ち、フィリピンのマニラへ参りました。そこでネブル先生はじめアメリカのグループに合流し、主にある交わりの時を楽しく過ごしました。

その翌日、マニラ空港を出発しネグロス島のバコロドへ行きました。アルバート・メーカド牧師が出迎えて下さり、ご自宅でお世話になりました。

4 月 16 日（土）ロベル伝道師の結婚式及び披露宴に参加させて頂きました。明るい雰囲気でもとても祝福された結婚式でした。フィリピンの結婚式は、私たちに文化の違いを初めて知らしめ良い経験になりました。

4 月 17 日（日）インマヌエルろう者教会の礼拝に出席し、韓国ろう者牧師・許仁寧先生は「神殿」をテーマとして、分かり易いメッセージを聞かせて頂きました。とても恵まれ励まされました。

4 月 18 日（月）から 19 日（水）にかけてネグロス島のバコロドの郊外

のサイロ・ムリアに行きました。自然豊かな緑の山々に囲まれた聖書学校の寄宿舎と野外の庭はとても広く美しい所です。バコロド・インマヌエルろう者教会はこの聖書学校を借りてキャンプをしました。約 80 名の参加者がありまし



Deaf Ministries International

DMI 日本部

Web: <http://japan.deafmin.org>

Email: info@japan.deafmin.org

Tel/Fax: (代表:マドレ) 075-871-8562

(スポンサーシップ:談議) 075-723-7089

(会計:マーシャル) 090-6664-8655

郵便 (大阪インターナショナルチャーチ):

〒540-0004 中央区玉造 2-26-47-407

DMI 国際本部 (オーストラリア)

Web: <http://deafmin.org>

Email: muir@deafmin.org

P.O. Box 395 Beaconsfield Vic. 3807 Australia

Tel: +61-3-5940-5430

Fax: +61-3-5940-5432

た。牧師と伝道師たちを除いてほとんどの若者ばかりです。屋外ステージあり、窓と玄関が全くありませんので、簡単に自由に出入り出来ます。ネグロス島の気温は33℃から38℃でとても暑いのですが、風が強いのでとても涼しかったです。エアコンも扇風機が全くありませんでしたが、風が強く吹いていたので、私は4回のメッセージをしても暑くは感じなかったです。感謝でした。

私の英語でのメッセージは本当に久しぶりでしたが、ほとんどをアメリカ手話で行ないました。現地では70%のアメリカ手話と30%のフィリピン手話を混ぜて使っているそうです。

私はフィリピン手話が分かりませんでしたので、アメリカ手話を使いました。

メッセージ途中で、分からなさそうな私の顔を見た時、英語の指文字を示してフィリピンろう者から親切にフィリピン手話を教えて下さいました。聖書のみことばがつながるかどうか



語っている湊崎先生
Pastor Minatozaki

心配でしたが、祈りながら4回のメッセージさせて頂きました。私はユーモアなお話を語る時、皆が笑い、力強いお話しを語る時、涙があふれた姿を見てつながれたので、ホッとしました。

男性3人と女性1人がバプテスマ(浸礼)を受ける決心をしました。20日(水)5キロ程の川まで歩いてそこでメーカド牧師の司式のもと4人の兄姉にバプテスマを授けられたので、大変喜んで神様に感謝を捧げました。



バプテスマ式 Baptism

19日と20日は教職者ワークショップに参加させて頂きました。韓国ろう者宣教師は教会組織について説明し、お互いに語り合っていました。フィリピンの教職者たちがいい勉強になったと思います。私たち夫婦が21日(木)に帰国する前の20日(水)夜は5組のグループによる劇と賛美披露を鑑賞しました。とても良かったです。その夜10時頃、牧師、伝道師、信徒たちにハグし握手しながら別れを告げました。フィリピンろう者は皆暖かく優しく色々と思いやり親切にして下さった事を感謝します。私はキャンプのメッセンジャーでしたが、逆に幸いなキャンプが出来て大きな恵みを得ることが出来て無事に帰国致しました。



食事の時 Mealttime



教職者ワークショップ Workshop

フィリピンの学校報告

2016年5月のDMI学校ニュースレターから

フィリピン政府は10年の義務教育を2年間延長して12年にすることにしました。これに伴ってDMI関連の学校も高校2年間のカリキュラムを加えることとなります。しかし、このためには新たな費用が必要になります。

ダバオ(学校&学生寮)

オーストラリアのバーウィックから今年始めにボランティアチームが来て、学校や学生寮などの補修や塗装、棚の取り付けなどをしました。また、放課後には生徒たちと交流をしました。

ダバオ校の11年生、12年生のカリキュラムには、一般教養学科の他に、人文・社会科学、パソコンのハードウェア管理、美容、調理、おもてなし等を加えようと計画しています。これらの学科を教える新たな教師が必要で、

またそれに伴う費用も必要です。ご覧のように多額の費用が必要になりますが、本校の生徒たちの学力は高く、ろう者の社会をリードする能力も高く評価されています。

今年、例年と比べて卒業生が少ないのは、ほとんどの10年生が、制度の刷新に伴って、11年生に進級するからです。この写真は、大学を卒業した学生たちです。この中の何人かは、マッサージ・セラピストの資格も取得しました。卒業式では、「成功、そして意義あるものへ」と題したメッセージが語られました。

耳が聞こえないことに加えて別

の障害を持つ生徒も、ダバオ校で学んでいます。盲ろうの少年ガブリエルを覚えておられますか。彼は触れるという行為で様々な活動に加わり、多くの友だちと楽しく過ごしています。彼の幸せそうな姿を見るのは、何と素晴らしいことでしょう。

カガヤン・デ・オロ (学生寮 & 就業プロジェクト)

ダバオ校を卒業していた数人が、専門学校に入学しました。高校を卒業した後、しばらく勉強から離れるのは、フィリピンの青年たちにとって、めずらしいことではありません。実際、賢明であることも少なくないのです。年下の生徒たちは、引き続き、タラカグ特殊教育センターで学んでいます。

悲しい出来事は、近所から出火した火事によって、3頭の豚が死んでしまいました。幸い畜舎は無事で、今、3頭の雌豚が妊娠しています。もうすぐ新しい子

豚が生まれて、豚の数が増えていくことでしょう。

バコロドとボロンガン (学生寮)

6月になると新しい生徒が入寮して、全員で25名になります。新入生の中には、自分の家の近くの小学校を卒業して、バコロド市の国立中学校に入学するために来た生徒たちもいます。この学校には、ろう者の生徒が学習できる環境があるからです。ソーシャルワーカーのリーゼルがバコロドに赴任して、アルバートとキムが学校と連携しながら、学生たちの放課後活動や宿題、日々の生活支援をするのを助けています。



リーゼル Leisel

サマル島のボロンガンに小規模な学生寮がありますが、その寮のリーダーのロデルが、最近難聴者のディナと結婚し、みんなでお祝いをしました。

リガオ (フィッシャーメン・オブ・クライスト・学習センター)

「フィッシャーメン・オブ・クライスト・学習センター」においても、政府の教育改革に沿って、高校を2年延長します。しかし、各々の生徒の必要に応じて、それぞれにふさわしい教育を提供することも続けていきます。延長する2年のカリキュラムには、コンピューター学習や職業訓練関連の教科が含まれる予定です。それに伴って、新たな機器や備

品が必要になります。木工、建物管理、縫製、健康維持、おもてなしなどの技術を習得し、コンピューターに堪能になるなら、就職の機会が広がります。また、自活プロジェクトは、自分の家で商売をスタートさせる技術を身につけたり、小規模な起業を手助けしたりなどして、若者の自立を促しています。

キャンプは参加費用がかかりますので、通常は学校のカリキュラムに含まれていません。しかし、今年のキャンプは、アメリカの支援者によって企画され、財政的な援助も得て開催されました。キャンプでは、普通の生活とは違う体験をすることができるので、生徒たちが自信を身につけたりする上で、大切な役割を果たします。



リガオのキャンプでの遊び
Fun at the Ligao camp



DMI JAPAN Summer 2016

- English -

Dear friends and supporters,

Thank you for the part you play in supporting the work of DMI around the world. Thank you to those who came to the Charity Concert in Osaka in May. It is a privilege to be able to share with you an update on the work, and this month I have chosen to concentrate on the Philippines. Rev. Masago Minatozaki and his wife, who pastor a Deaf church in Sasebo, were invited to go to the Philippines to speak

at the spring camps there. I asked Pastor Minatozaki to write a report of their time there and to share some photos. I think it is wonderful that this couple from Japan was able to help in the Philippines.

I will also include a few more items of news from the work in the Philippines that will encourage you to pray more for the Deaf folk in this country.

The Lord bless you all.
Alayne Madore

At the Philippines Camp

Pastor Masago Minatozaki
Sasebo Deaf Baptist Church

We were invited, by DMI missionaries Albert and Kim Mercado in Bacolod on the island of Negros in the Philippines, to speak at a DMI camp April 18-20. At first we thought it was impossible. When we checked our schedule for April we were to be in Korea from the 6th to 12th speaking at special meetings at a Korean Deaf church. And from the 22nd to the 26th we were on an evangelistic trip from Tokyo, to Aichi to Nara, so we had a really hard schedule. But we were reminded of the words of the Lord Jesus, "It is more blessed to give than to receive." And so we accepted the invitation.

On Wednesday, April 13th, after we had finished our responsibilities in Korea, we left for Manila with a Korean Deaf pastor, Heo In Yong. Here we met with Neville Muir, DMI Executive Director, and a team of volunteers from the USA, and enjoyed a time of fellowship. The following day we left Manila and flew to the island of Negros, to Bacolod. Albert and Kim were there to welcome us, and they took us to their home where we stayed.

Saturday, April 16th, we were privileged to attend Evangelist Rodel's wedding. It was such a bright, joyful, and really blessed wedding. Weddings in the Philippines are so different from those in Japan, so it was a really good experience.

On Sunday we attended Immanuel Deaf Church where Pastor Heo In Yong spoke. His message was easy to understand and we were both blessed and encouraged.

Then from Monday to Wednesday we went to the camp location just outside Bacolod. There is a Bible school dorm surrounded by mountains and lush green nature, and it has a large, beautiful outdoor garden. The Bacolod Immanuel Deaf Church rented the Bible school for the camp. About 80 people attended. Apart from the pastors and evangelists most of those attending were young people. There is an outdoor stage with no windows or doors, so it is easy to go in and out. Even though the temperature on Negros Island was between 35-38 degrees, there was a strong wind so it felt cool. There was no air conditioning, but with the strong wind, even though I preached four times, I didn't really feel hot. Praise the Lord.

It was a long time since I last gave a message using English sign language, but this time I mostly used American Sign Language. In the Philippines 70% use ASL and about 30% use Philippino sign language. I don't understand Philippino sign language, so I used ASL. When my face went blank showing I wasn't understanding, a kind Philippino Deaf man used English finger spelling and taught me some Philippino sign language. I was worried that it might be difficult to get the Bible message across, but I prayed and gave four messages. When I added some humor into my talk everyone laughed, and when I spoke strongly and straight, I saw people with tears in their eyes, so was relieved.

Three guys and one girl decided they wanted to be baptized. On Wednesday (20th) we walked 5 km to a river where Pastor Mercado contacted a baptismal service, and these four people were baptized. We were thrilled and gave praise to the Lord.

On the 19th and 20th there was a workshop for workers which we attended. We learned about the structure of the Deaf churches in Korea, and we were able to have discussions. I think this was really helpful to the workers from the Deaf churches in the Philippines. The night before we left the Philippines we formed five groups for a time of drama and worship. It was really

great. About 10 p.m. that night we said goodbye to everyone – pastors, evangelists, and church members – hugging and shaking hands. The Deaf people in the Philippines were so warm and kind and really cared for us. Praise the Lord. Although I was the speaker at the camp, for me it was a wonderful experience, and we were blessed. We arrived safely back in Japan.

Philippines School Report

From the May 2016 DMI Schools Newsletter

The Philippine government has now extended education from 10 to 12 years giving an extra 2 years of Senior High School education. Our schools in the Philippines must also add 2 years to the secondary Curriculum; but we will need to give the schools extra finance for this.

Davao

A work party from Berwick, Australia visited Davao early this year and repaired woodwork, painted rooms and installed cupboards in dormitories. They also enjoyed activities with the students after school hours.

Davao's plans for the new Grades 11 and 12 will include general academic subjects, Humanities and Social Sciences, Computer Hardware Servicing, Beauty Care and Wellness, Food Processing and Hospitality Skills. Extra teachers and resources will be needed and the expenses to provide these will be an extra cost.

There were less graduates this year because most of the Grade 10 students will be continuing to Grade 11. This photo shows the College Graduates who are to be commended on completing a college degree. Some students also gained the Massage Therapists Certificate. The title of the Graduation Address was "Success to Significance".

Children with handicaps as

well as deafness are also catered for at Davao. Let us not forget our deaf and blind boy Gabriel who enjoys interacting with his friends using touch, and freely smiles and joins in many activities. It is wonderful to see him happily participating in school life.

Cagayan do Oro Project

Several young adults who previously completed High School have now returned to DMI in Davao to continue study at College level. A break from study is often a good idea and students in the Philippines sometimes do this. The younger ones continue at Talakag School Special Education Center.

Sadly a fire from an adjoining property killed 3 of the pigs, but their buildings and pens were not damaged and 3 other sows are now expecting litters to increase the numbers again.

Bacolod and Borongan Dormitories

More students will be starting at the Bacolod dormitory in June, increasing the number to 25. Some of these students have completed primary schooling at schools near their homes but have come to Bacolod to attend Bacolod City National High School, where deaf students are catered for. Leizel, a Social Worker, has now been appointed at Bacolod to help Albert and Kim liaise with the schools, supervise the students

after school hours and help them with homework and everyday tasks.

Rodel, our leader in the small dormitory at Borongan on Samar island was recently married to Dina who is hearing impaired and it was a happy celebration for all.

Fishermen of Christ Learning Centre - Ligao

FCLC will extend secondary education to 6 years as now required by government law in the Philippines but the school will continue to provide education that caters for individual differences and the needs of every student. More computer study and vocational subjects will be included in the extra final 2 years and new tools and equipment will be needed for the practical subjects. Woodwork, building maintenance, dressmaking, health and wellness, hospitality skills and more computer studies will enhance opportunities for employment. The Livelihood Project will continue to teach the skills that help young adults start their own small home businesses and support themselves.

This year a camp was financed and run by supporters from the USA. Camps are not usually included in the school curriculum due to the cost, but they provide an important opportunity for students to develop confidence and experience many activities not usually available to them.